

重粘土圃場での雪踏みは碎土性が向上し土壤が膨軟化します。深さ20～30cm まで土壤が膨軟化することで、その後の飼料用とうもろこしの増収が期待できます（表1）。

表1 重粘土圃場において雪踏みが土壤物理性と飼料用とうもろこしの収量に与える影響

(*印は無処理と差があることを示す。)

処理	深さ (cm)	容積重 (g/cm ³)	孔隙率 (%)	収量 (kg/10a)
無処理	10～20	1.3	48	5902
	20～30	1.7	35	
	30～40	1.6	38	
雪踏み	10～20	1.2	50	6889**
	20～30	1.4*	44**	
	30～40	1.6	41	

土壤凍結深は十勝農協連が運用しているウェブサイトで確認できます(図2, <https://www.jatokachi.jp/>)。現在の凍結深と将来予測を確認しながら、雪踏みにご活用ください。

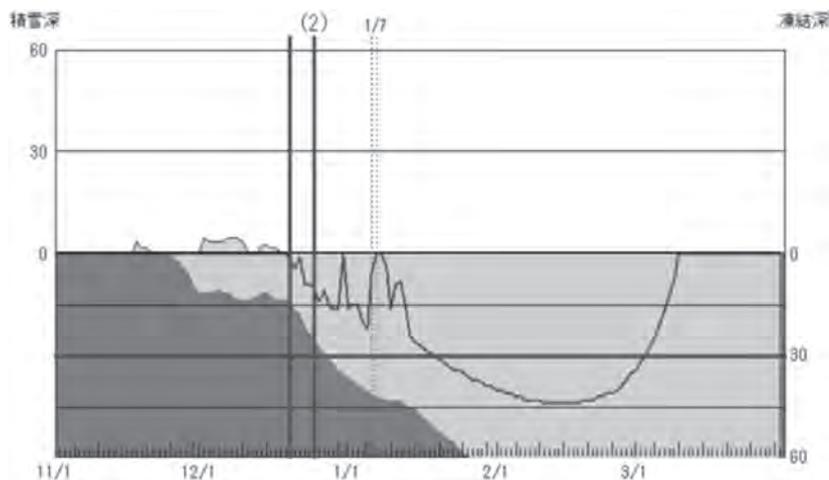


図2 十勝農協連の雪踏みによる土壤凍結深推定システム

3. 留意点

目標土壤凍結深は各作物とも30cmです。過度に凍結が深くなると春の作土の乾きや地温上昇の遅れが顕著になるので注意が必要です。

(成績名：土壤凍結深制御技術の適用拡大と技術体系化)

もう少し詳しい情報はこちら

検索は、「農業技術情報広場、一般課題R1」で



本技術内容についての問い合わせ先

道総研十勝農業試験場

電話 (0155) 62-2431

E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp